

新聞雜誌

明治壬申四月

第卅九號

定價二匁



特	別
18	
787	
39	



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ  
 樂シキハナシ見聞ノ狹キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑惟ムク多ク竟ニ我ヲ  
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ  
 大政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カクキ世ニ生レシカヒ  
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 大政ヲ始ノ諸府諸縣ノ變革  
 又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞マテ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中  
 ノ人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻ノル事ヲ棄ントテナリ願ハ此冊子  
 ヲ讀ムフ人々一ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ヲ驚可ク  
 喜可キ事多ク唯一隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レス夏虫氷ヲ疑ノ笑有リト知  
 玉サテコノ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ヘケレ



新聞雜誌第卅九號 明治五年壬申

○今般 主上御召船横須賀造船所ニ於テ新ニ御製  
 造相成リ御船號蒼龍丸ト定メラレタル由  
 ○四月一日頃ヨリ府下六大區毎ニ假役所ヲ設ケラレ  
 三等裁判所ト稱ヘ司法省ノ官負日々出張シ聽訟斷獄  
 ノ事ヲ取扱フ由  
 ○府下每區取締組々頭ヲ置レシニ自今廢止セラレ更  
 ニ區長權區長ヲ置レタリ但シ官等區長十二等權區長  
 十三等ナル由

新聞雜誌 第七九號

舊出石藩知事仙石久利父子千鳥香爐獻納ニ付

願書

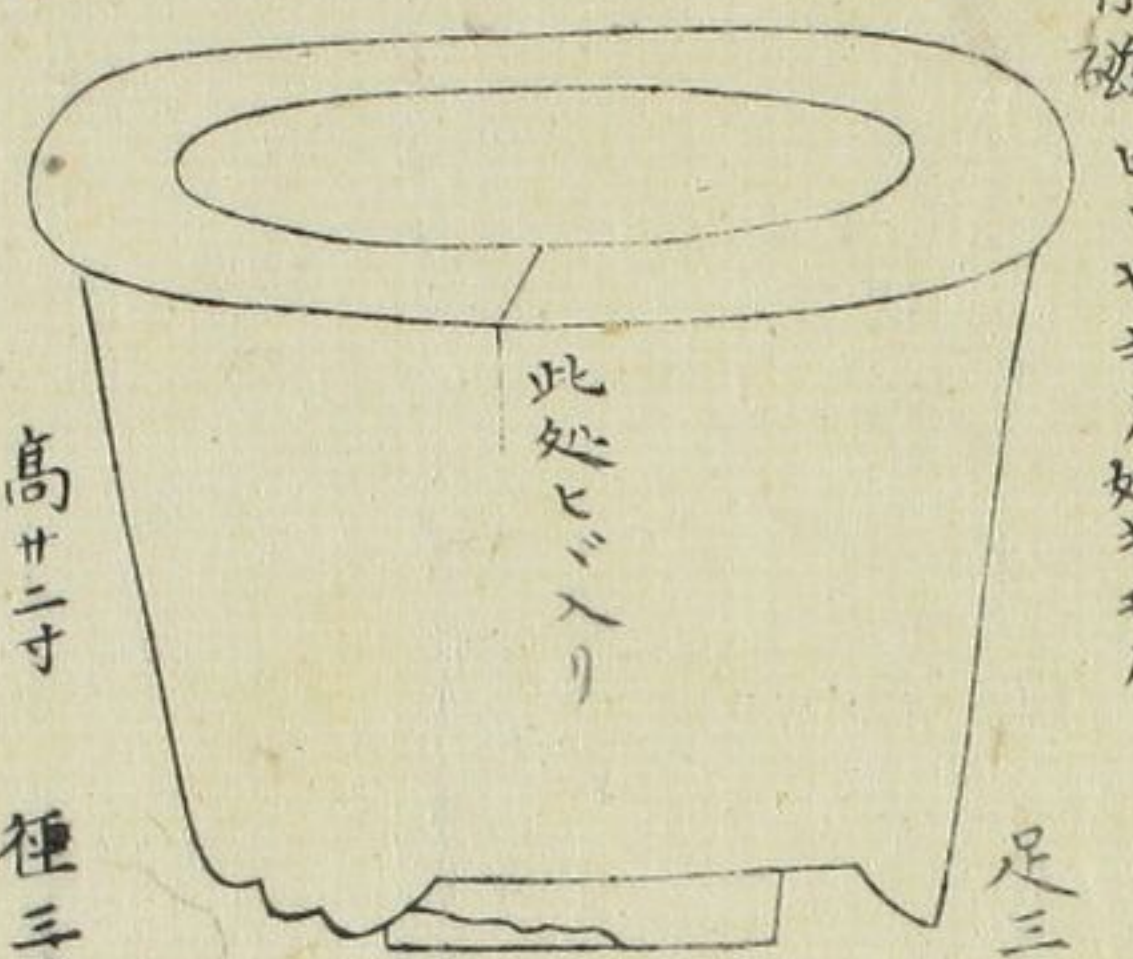
臣久利政固誠恐誠惶頓首謹言ス 臣祖先秀久豊臣秀吉ニ仕ヘ勇名ヲ以テ一時ニ鳴レリ一夜伏見城ニ宿直セシニ賊アリ卧内ニ闖入シ將ニ秀吉ヲ狙ハントス 秀久隻手之ヲ擒ス太閤手カラ千鳥香炉ヲ以テ其勲ヲ賞ス 炉ハ益來國政和官宦ノ製トス其質堅緻如石其色瑩然如玉其千鳥ノ名ヲ得ル所以ハ足利義政嘗テ此器ヲ袖ニシテ寒夜鴨河ノ側ニ微行シ千鳥ノ聲ヲ聞シニ會月黒ク柳蔭ニ人アリ侍臣ヲシテ之ヲ紀シケレハ亦來テ

水禽ヲキク者ナリ其名ヲ問フ石黒宗堤一荅フ義政吾ト風雅ヲ同セシ者ナリトテ直ニ招テ此炉ヲ賜フ是レ千鳥ノ名ヲ得ル所以ナリト云後轉傳シテ遂ニ豊臣氏ノ有スル所トナレリ豊氏雄才大略ヲ以テ天下ヲ平定シ其豪傑ノ心ヲ收ムル苟モ功ヲ立レハ輒チ土地ヲ割キ之ニ酬ユ又大ニ茶道ヲ興シ古器ヲ崇重シ一器購フニ十萬金ヲ以テシ之ヲ以テ旗ヲ褰ケ陣ヲ陷ル、ノ將士ニ酬ユ天正十三年十月朝豊臣氏大ニ茶齋ヲ北野ニ設ク上縉紳ヨリ下緇素ニ至ル迄凡ソ好茶者皆會ス太閤古器ヲ陳列スルヲ四十衆目ニ誇示ス此炉實ニ其一

居ル則其室愛スルヲ知ヘシ當時此香炉ヲ秀久ニ賜フ  
 之ヲ五六萬ノ封地ニ比スト云後臣家屢祝融ノ災ニ罹  
 リ記録室器大半烏有ニ附ス然ルニ此炉特ニ其災ヲ免  
 レ依然家ニ藏スル一丸二百七十有餘年真ニ神護アリ  
 ト云ヘシ臣今之ヲ 陛下ニ獻セント欲ス 陛下  
 幸ニ其請ヲ允シ以テ禁庫ニ納メ之ヲ末世ニ傳ヘ其珍  
 器タル所以ヲ全セシメ玉ハ、帝ニ臣ノ慶幸ノミナラ  
 ス祖先秀久亦將ニ黄泉ニ感泣頓首セントス臣戰惶昧  
 死謹言 壬申四月五日

宮内省 御中

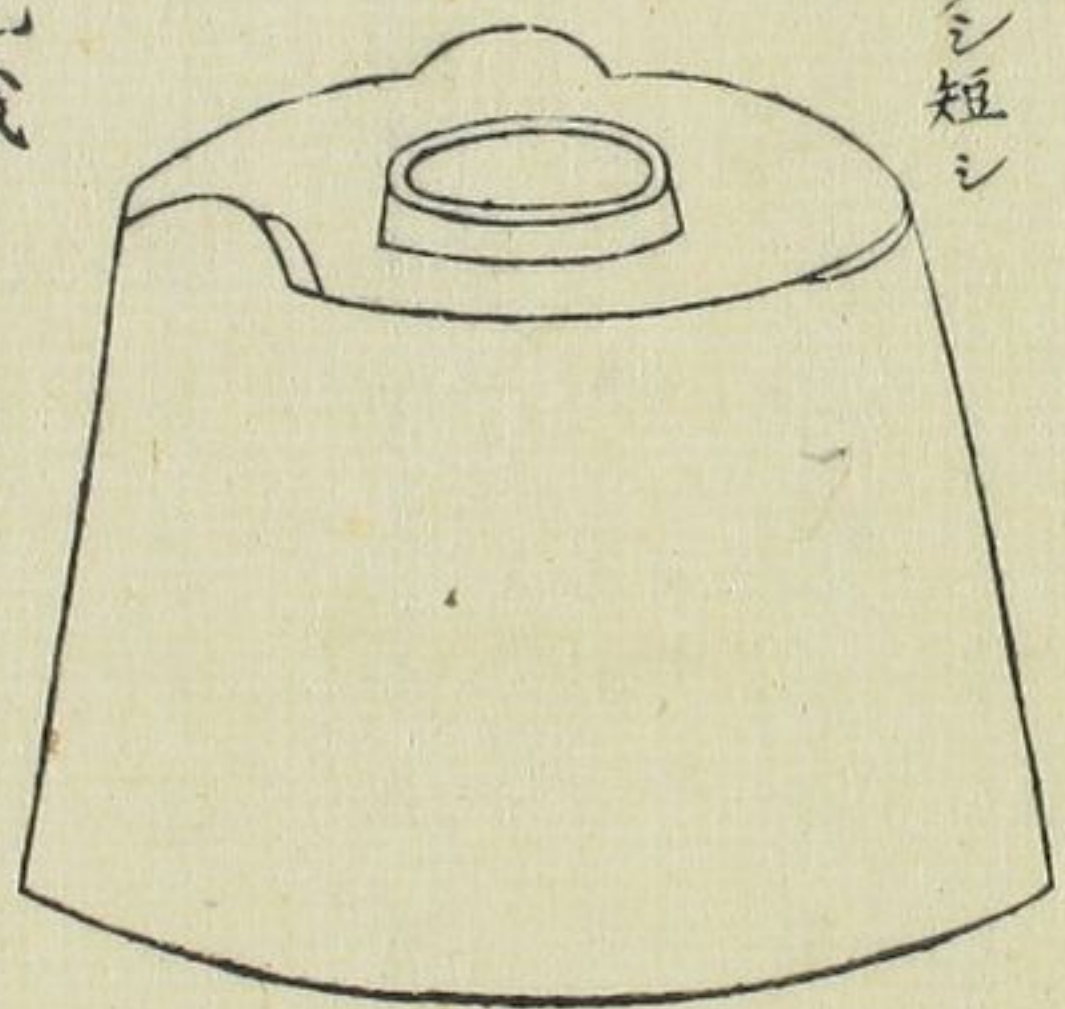
仙石政固  
仙石久利



上青磁ヒツヤキノ如キモノ

足ニツアリ臍ヨリ少シ短シ

高サ二寸 徑三寸 重五十九錢



古老ノ傳話ニ往古唐土ヨリ香炉三顆渡來セリ名モ知レサリシニハ足利家ニ傳  
 リ東山殿秘藏アリテ後ニ千鳥ト名付ケラレシ由外ニツハ何レノ家ニアリシヤ根元  
 ハ不詳トイヘモ後ニ水戸高松兩家ニ有リケレ其ハ千鳥出ノ香炉ト唱ヘシ由又或家ニ  
 モ持傳ヘシ由傳聞ス世間摸造ノ品ハ多分アル者ト見ヘタリ

○今般山口縣ヨリ古金七十萬兩大藏省へ收納セル由  
 ○此頃東京築地横濱六十一番コツプ社中ニテ相州小  
 田原豆洲湯治場其外江ノ島鎌倉等へ乗合馬車ヲ仕立  
 諸人ノ望ミニ任セ往來セル由報條ヲ出シタリ  
 ○相州浦賀港ニ於テ是迄上下ノ通船改來シ處自今廢  
 止セラル、ノ旨三月廿九日御布令アリタリ  
 ○四月一日頃横濱ニテ外國碇泊船僅カニ軍艦四艘蒸  
 氣船五艘帆前船五艘倉船八艘ハカリナルヨシ隨テ輸  
 出入ノ物品モ少ナク貿易モ亦稍不景氣ナルヲ察セラ  
 レタリ

○松山縣野中共米國華盛頓府ヨリノ來翰ニ近日大快  
 談アリ其譯ハ義婦數多ノ徒ヲ集合シ建言シテ曰議負  
 ハ衆民ノ代人ナリ此議負ヲ撰擧スルニ婦人ニ至テ獨  
 リ關セサルノ理ナシ何トソ任撰ノ人別ニ加入致度當  
 時ノ議負中ニ指サシテ愚物ト目スル者數々アリ此愚  
 物ノ出ル所以ハ婦人撰擧ニ關セサル故ナリ男子ヲ見  
 ルハ婦人ニ若ハナシ元來人ト云者男女ニヨリ天稟ノ  
 智愚賢不肖ハ無之入ノ才愚ハ學フト學ハサルトニヨ  
 ル其證據ハ私共ヲ何役ナリト試ニニ御使ヒアレハ判  
 然タリ併婦人ハ内ヲ守ルヲ當トスル事故敢テ出役ヲ

望マ子ト唯望ムハ議負ノ撰舉ナリ斯ク願出シ上ハ何  
カ實功ヲ立テサル時ハ信用モナカルベシ其實功ニハ  
密茨屋ヲ探リ出シ是ハ賣淫婦ニ家ヲ貸シ少シノ利ヲ  
當國妓樓ト云者曾テ無シ此賣淫屋ハ政府ニ於テ當時  
是ヲ實功ニ備ヘント云シカ迄日夫々探索シ此頃刑部  
局ニ於テ評議寮中ナリ此四五夜前義婦ノ魁カウタル某氏  
或ル一屋ヲ借り請ケ衆ヲ集メテ喋々ト自己ノ議論ヲ  
講セシニ其論ニ曰此賣淫女政府ニ於テ罰スルノ理ナ  
シ元來是等ハ人ニ非ス全ク猫犬ナリ政府ニテ猫犬ヲ  
罰スル条理ナシ供シ此猫犬ノ行ヲ為ス所以ヲ原タケスレ

ハ必ス窮スルヨリ出ルモノナラン我輩出銀シ政府多  
用度中ヲ煩ワザラサス再ヒ人ノ心ニ入替程ヨキ職ヲ與ヘン  
トノ議論ヲナセリ此時刑部局堂々タル役人共衆ニ混マ  
シテ聞ニ行キシ由是亦奇ナラスヤト云々  
○全書中ニ我日本ノ如キ一小島ヲ以テ獨リ 天照御  
國トノミ井蛙ノ見ヲ株守シ弱小ノ兵權ヲ以テ各大國  
ト並ヒ交際セントスルハ譬ヘハ我ハ鈍玉鈍藥ニシテ  
彼ハ精玉精藥ナリ豈ニ争ヒ對スルヲ得ンヤ當今宇宙  
間暇ヲ幸トシ鼓舞ウツク作興サカス開化ニ進マシメ仁ヲ看ミトシ義  
ヲ矛ホトシ正々堂々抗立スルニアラサレハ維持ノ策無

之儀ト愚考仕候御承知ノ太平洋「ヤンドイ」國ハ人口  
 僅ニ六萬ノ小嶋ナレト今ヲ去ル二十年前女王何某位  
 ヲ襲キ既<sup>ガイ</sup>然トシテ悉ク従前ノ官負ヲ退ケ之ニ替ルニ  
 各國ノ有名家ヲ招キ各職ニ進メ大ニ奮習ヲ除キ種類  
 多キ言語ヲ一定スル迄大改革ヲ為シ夫ヨリ次第ニ文  
 明ニ進ミ既ニ其小島ヨリ全權公使當國ニ出張スルニ  
 至ル米人古ヲ卷キ此ヲ談セリ何卒此美<sup>ミ</sup>轍ヲ踏<sup>フ</sup>ン<sup>ト</sup>我  
 皇國今日ノ要務ト奉存候云々

○全長屋某ニ答フル書中ニ貴翰中ニ云フ萬金ヲ散シ  
 益ナケレハ早々歸朝シ内閣ノ事務ニ勉勵<sup>ツ</sup>スヘシ云々

實ニ御申越ノ通兼テノ案ニ相違シ游歴國家ノ益トナ  
 ル甚少シ費金ト有益ト比較スレハ費多ク益少ナシ供  
 僕一己ノ益ヲ得ル亦不少此一己所得ノ益ヲ以テ歸  
 朝ノ後君輩ニ饗サントス果シテ察ス君輩僕ヲ目シテ  
 蟹<sup>カニ</sup>進歩<sup>シンポ</sup>ト云ン其蟹ト云フ一ヲ舉テ證ス前日君等ト愛  
 藏セシ佩刀モ今日ノ見ニテハ工部省ニ出シ鉄道ノ一  
 寸ヲ長フセント欲ス是前日ノ見ト異ナル一也又支那  
 日本共男女ノ交際其宜キヲ失フ尔後男子ハ權ヲ割<sup>カ</sup>キ  
 婦人ニ與フル<sup>ト</sup>天地ノ公道ナル<sup>ト</sup>ヲ知ル此昨說ニ異  
 ル二也云々

○横濱山手丸馬場ニ於テ四月三日ヨリ五日迄三日ノ  
間夕例ニ浴リ外國人競馬ヲ催フセリ此日人力車牽ノ  
ウチ駿足ノ者七八名ヲ選ヒ車ヲ牽セ是速ヲ争ハセシ  
カ左ノ三名最迅速ナリ依テ見物ノ外國人ヨリ各賞金  
ヲ與ヘシヨシ横濱新聞ニ出セリ

金十一圓

第一等金川驛臺下浴助

同 五圓

第二等川崎驛 小政

同 三圓

第三等 名前不知

○京都府東山一心院ノ末寺透女寺純譽聖光寺問譽竹  
林院忠譽連署シ佛事法用ノ外洋服着用不苦ヤノ段同

府へ伺出シニ勝手タルベキ旨附紙アリタリト云

○京都府下ニテ諸神社ノ御旅所ト称スル者唯祭禮ノ  
節神輿ヲ休ムル迄ノ場所ニテ神靈ヲ祠ルニ非ス畢竟  
無用ノ設ケナリトテ悉皆取拂ヒニ相成タリト云

○四月上旬東京府下へ左ノ通り嚴禁ノ令アリタリ  
一裸體又ハ袒裼ニテ往來致シ候儀ハ勿論見世先其外  
總シテ往還見通シノ席ハ同様不相成候事

一男女入込洗湯不相成候事  
但シ湯屋ニ階并ニ入口等ハ葎蕘燠簾ノ類下ケ置往  
來ヨリ見通シ不相成様可致候事



一春画ハ勿論都ラ猥々間鋪錦繪ノ類賣買不相成候事  
一俗ニエニギト唱ヘ陰莖ノ形ヲ模造シ賣買候儀ハ  
勿論及令小兒ノ翫物タリ凡右様ノ品取扱候儀不相成  
候事

一俗ニホリモノト唱ヘ身体ヘ刺繡致シ候儀不相成候事  
右ハ孰モ風俗ヲ紊候而已ナラス如斯弊風有之候テハ  
第一御体裁ニモ關係致シ實ニ不相濟事候間自今取締  
組ニ於テ嚴密ニ相糺シ萬一心得違ノ者於有之無用捨  
相當ノ乃置可致云々

新聞雜誌第廿九號 終

伏テ稟ス本局刊行新聞雜誌追々定則ノ通前金受取り  
毎號送届ノ場所既ニ七百餘軒ニ及ヒタレハ更ニ府下  
郵便脚夫ニ相托シ届方致候然ルニ是迄儘歸縣旅行又  
ハ轉住等ニテ先方住所ヲ辨セサル向モ有之大ニ困却  
致候冀クハ自今轉住等ノ節ハ其區躰并地所番數詳細  
御書記シ速ニ本局ニ御報知可被下候

日新堂社中誌

○英和對牘

青柳氏編輯  
英人グレゴリー校正

二冊

右ハ英和日用ノ書牘ヲ對譯セシモノニテ方今交際  
必携ノ書ナリ近日於本局發兌致候 日新堂

○復古原論 一冊

右ハ静妙子著述ニテ我邦ノ國体ト太政復古ノ故ヲ論セシ書ニシテ雜誌附録トシ近日發兌致候

日新堂

○湯火傷咒符

是我家傳ノ一奇法ナリ普ク之ヲ諸人ニ施シ共ニ其徳ヲ同フヤントス請フ之ヲ試ミタマヘ如何ナル湯火傷ニテモ<sup>クダ</sup>治スル<sup>ト</sup>如<sup>ク</sup>神

仙易八卦  
運氣人相

東京北本町番場町十六番地  
風山房

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ケ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及バザル處多シ願クハ同好ノ人何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉ハ次第ニ刊行發兌スベシ但寄玉フ書付ニハ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件

- 一 田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借
- 一 產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
- 一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
- 一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一 新發明巧器及書籍等ノ賣買
- 一 金銀其外ノ貸借等
- 一 失物尋物等
- 一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一 見世ヲ集會等ノ引札
- 一 右等何レモ一行ハ三字一度出板價三知宛同事世ニ發兌ハ五知ヲ金
- 一 三度分ハハ知ニテ御引受イタシ候

新聞雜誌定價一冊銀二匁 每週出版

當時發兌躰ヨリ先キ十冊分引受候向ハ定價ヨリ一割半引

同二十冊分ハ二割引 同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每躰發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望ミノ人ハ本局ハ御引合ノ上御相談可申候

本局

東京西國若松町 新 堂

東京西國横山町三丁目 和泉屋金右工門

東京芝三高町 和泉屋市兵衛

大坂心齋橋通 河内屋吉兵衛

東京東洲院三條上九町 村上勘兵衛

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛

大坂心齋橋通 河内屋喜兵衛

大坂心齋橋通安土町 河内屋清七

東京日本橋通 和泉屋壯造

賣弘呀